

# 低血糖症治療の会

## 会報

発行者：「一般社団法人低血糖症治療の会」

理事長 柏崎久雄

〒263-0043

千葉県稲毛区小仲台 6-19-19 Myビル

Tel.043 (207) 6035 Fax.043 (207) 6036

<http://teikettou.com/> [info@teikettou.com](mailto:info@teikettou.com)

### 保険適用のための活動 柏崎久雄理事長

8/24 に長野市議会の議員研修会と佐久市議会の公聴会で機能性低血糖症について講演しました。議員の方々は、熱心に聞いてくださり、うなずかれていました。

質問の中で、5時間のOGTTの保険適用がなぜ必要かというものがありましたが、現在の保険医療制度では、混合診療は禁じられており、保険適用がない限り、個人的な医療機関で自費診療として患者さんの希望に合わせて検査するしかないので。

実際に、最近は多くの患者さんが他の医療機関で5時間のOGTT（耐糖能負荷試験）をしないで低血糖症と診断されていることが判明しております。これは、もっと簡単な糖尿病の診断の基準に照らしても不正であり、自費検査だからといって、このような安易な診断がされて高額な栄養食品を販売するような医療機関は問題です。

5時間のOGTT検査は、診断だけでなく治療の為にも必須であり、機能性低血糖症と言っても多くのパターンと症状があり、その人の特徴を掴んで治療を進めるには、長く手間の掛る検査をしなければならないのです。

しかし、考えてみれば5時間9回という検査は小規模の医療機関にとって、患者さんが居続けて検査するわけですから、場所も確保しなければならず、準備や説明にも時間がかかり、容易なこと

ではないのです。看護師もその為に人数を確保しなければなりません。

機能性低血糖症の診断のために保険適用が急務であり、その前提となる病名認知も未だ十分ではありません。先日は、30歳代前半の精神科医が、検査データなどや説明を見ても機能性低血糖症を認めず患者さんが不本意な扱いを受けたと報告されました。患者さんやデータを診ずに、医学書などを判断の材料としている受験勉強の結果の医師が多いことも危惧されます。

議会の研修会では、普通行われている糖尿病の検査の2時間OGTTでは、間違いなく糖尿病とされる200mg/dlの以上の値を出しながら、4時間値では50くらいの完全な低血糖値を出している患者さんのデータも説明されました。このような方が2009年の検査では202名のうち6名、境界型糖尿病の方も19名、2010年前半では123名のうち4名、境界型糖尿病が10名いるのです。つまり、糖尿病として治療を行うと極端な低血糖を起こし、生命の危機につながるのです。

さらに、5年間の検査1041名のうち、他の病院で統合失調症と診断されていた人が128名、うつ病と診断されていた人が91名、ADHDが5名、パニック障害が16名いたことも報告されました。



## 「機能的低血糖症について」（長野県長野市・佐久市議員研修会資料）

一般社団法人低血糖症治療の会  
理事長 柏崎久雄

## 1. 病名認知と保険適用の必要性

車のエンジンがガソリンと酸素を必要としているのと同様に、人の身体もエネルギーと酸素を必要としています。活動の多寡に関わらず、エネルギーの源としての血糖の値は 90~100mg/dl に調整されなければなりません。食後血糖値が 140 を超えると注意が必要で、170 を超えると腎臓から尿糖として糖分が排出され、多すぎないように調整されます。80 を下回ると、細胞の中に血糖を取り入れるホルモンであるインスリンの分泌が止まり、身体の中で糖新生という働きが進んで血糖値を上げるように調整されます。この調整機能がうまくいかなくなり、血糖値が高止まりする病気は糖尿病として知られています。糖尿病には自覚症状が殆どないので、空腹時の血糖または 75g 経口ブドウ糖負荷試験で診断します。空腹時に 126mg/dl 以上の血糖があればブドウ糖負荷をしなくても糖尿病型と判定されます。（資料参照）

糖尿病が多くの病気を併発してくることは周知され、治療の重要性が叫ばれていますが、血糖値が少ないほうが、どうみても身体には悪い影響をもたらす可能性は高いのにも関わらず、ないがしろにされています。それは血糖値が下がることはない、という前提に基づいているからです。機能的低血糖症という病気は、医学界でも全く認識外のものだったのです。

2009年1月の国会勉強会では、元鹿児島大学医学部病院院長の納光弘医師から、糖尿病学会でも5時間のOGTTを取った事例がなく、全く「低血糖症」ということは知られていなかったこと、ご自分の5時間のOGTTのデータを鹿児島大学の講演の中で発表したら非常に興味を持たれたと報告されました。さらに、健康であると自覚している人から有志を募り、50名の5時間OGTTデータを集めているが、「低血糖症」である人が多くみられて驚いているとも報告され、実際に「機能的低血糖症」があることを医学会に示さなければならぬと力説されました。納医師が教授であった鹿児島大学医学部第3内科は、神経内科・呼吸器内科・膠原病・糖尿病などを担当した、日本において最も規模の大きな神経内科の一つであり、この分野での権威であります。

低血糖症の診断のためのOGTTが5時間でも保険適用になる、との国会答弁がありましたが、現在の保険適用では時間や回数が拘束されないで、その答弁は正しいこととなります。しかし、実際には費用と手間の関係から保険適用が無理なことは、2009年1月の国会勉強会における私どもの資料にたいして厚労省の担当者が、認めております。（資料参照）

保険診療と自由診療との混合診療が認められていないので、大きな病院では自由診療としての5時間のOGTT（耐糖能負荷試験）をすることはないでしょう。小さな病院では、患者さんを5時間以上拘束するので、待機する場所を確保することが難しく、9回の採血と採尿・検温は大きな手間が掛るので、実際には無理なものとなります。しかし、低血糖症は血糖値が少なくなってホルモンの分泌も異常となるために多くの病気を併発させるので、5時間のOGTTは多くの病気の根本的原因解明にもなり、特に精神症状の悪化や慢性疲労などの原因解明のために有効な検査であります。国会勉強会では、2000名以上の検査結果を報告しております。

### [5時間のOGTTの保険適用が可能か]

医科診療報酬 第2章 特掲診療料 第3部 検査 第3節 生体検査料 負荷試験等
D288 糖負荷試験
1 常用負荷試験（血糖、尿糖検査を含む） 200点
2 耐糖能精密検査（常用負荷試験及び血中インスリン測定又は常用負荷試験及び血中C-ペプチド測定を行った場合）、グルカゴン負荷試験 900点
注 注射、採血及び検体測定の費用は採血回数、測定回数にかかわらず所定点数に含まれるものとする。
原則として、「糖尿病疑い」の初診月に耐糖能精密検査は認められる。

糖尿病の疑いがあり、かつ、低血糖症の疑いのある人の2時間のOGTTは可能ということになりますが、2時間では低血糖症の検査になりませんので、低血糖症検査目的の5時間の耐糖能精密検査が必要になります。もちろん「2時間まで保険で残りの4回は自費で」という混合診療は、制度上認められません。

実際は、以下の理由でインスリン検査を含む耐糖能精密検査の保険適用900点では、必要経費よりも保険点数が低いので、検査は無理なのです。

### [5時間の耐糖能精密検査の実際費用]

#### a. 耐糖能精密検査の料金

血糖検査	11点	110円/体	
尿糖	10点	100円/体	
インスリン	120点	1,200円/体	1回あたり合計1,410円

これを2時間に5回の検査ですと、単純には $1,410 \times 5 = 7,050$ 円となります。

5時間9回の検査ですと、 $1,410 \times 9 = 12,690$ 円となります。

これで、5時間では既に900点9000円を超えているので、1で耐糖能精密検査が制度上可能でも、費用上で保険適用は無理となります。

#### b. その他の諸経費

75g グルコース液 200円（現在の保険制度では別に算定できる）  
（採血困難な場合に、翼状針とディスポの注射器を用いることがあり、諸経費がかかる。）

#### c. 診察料

糖負荷試験の場合には、検査の判断料は算定できない。  
初診料（2700円）か再診療料（710円）が保険診察では請求できる。

#### d. 看護師の給与

保険請求では計算に入らない。検査説明（10分～15分）、採血（1回5分×9回）、スピッツ準備、時給（2,500円）として合計1時間半で3,750円

合計すると、耐糖能精密検査の保険請求の点数は、2時間でも5時間でも変わらないため

初診	a 900点、	b 20点、	c 270点、	合計1,190点	11,900円
再診	a 900点、	b 20点、	c 71点、	合計991点	9,910円

実際に掛かる検査費用は、

a 検査費用12,690円	b 諸費用200円	c 診察料2,700円	d 看護師手当3,750円	
				合計 19,340円

現在の保険診療では、2時間のOGTTでは初診として11,900円の収入ですが、5時間のOGTTでは実際には19,340円が少なくともかかることになり、2時間の耐糖能精密検査としては可能でも、5時間はできないこととなります。

（マリヤ・クリニックではその他に以下の経費が掛ります。）

- 検査結果ファイル（¥1050）の患者さんへの提供
- 検査後の体力回復のための、ビタミンCの点滴とサプリメントの提供
- 申込書類一式の事前発送、検査データ入力と結果の発送

（マリヤ・クリニックでは検査料を2万円にし、医師指導料と栄養指導料5000円の徴収を始めました。）

- ◆ 管理栄養士が低血糖症と検査及びその結果の説明をする。延2時間
- ◆ 医師による診断

これらに多くの時間と手間がかかり、同様同質の診察及び検査はなかなか他の医療機関ではできないものとなっています。マリヤ・クリニックでは、これを他の病院でもできるように機能性低血糖症に関する知識の一般化と治療法の様態別のパターン化を検討しています。その為に、希望する医師への無料の治療法講習を始めています。潜在患者数1000万人と言われる低血糖症の治療を一般化することが目的です。マリヤ・クリニックだけでは、対応しきれない患者がいるのに、正しい治療法を行える医療機関が殆どないことが大きな課題です。

## 機能的低血糖症に係る国の取り組みを求める意見書

慢性的に血糖値が高い状態が続くと糖尿病を発症することは知られていますが、すい臓の機能失調等による血糖値の調節異常によって発症する「機能的低血糖症」は医師ですらまだ認知度が低い病です。

機能的低血糖症は、糖の過剰摂取や過激な食事制限、過食といった食生活の乱れやストレスなどが原因となって、血糖値が急激に低下したり、低い状態にとどまってしまう疾患で、現代の食生活も誘因の一つと指摘されており、近年、研究が進むと共に、患者の数も増えております。

機能的低血糖症は、脳への血糖補給不足に加え、アドレナリンなどの内分泌系異常や自律神経にも影響し、慢性疲労やうつ状態、集中力不足、情緒不安定、記憶障害など、身体面、精神面ともに実にさまざまな症状が引き起こされることが分かってきています。症状から精神疾患や神経疾患などと誤った診断をされるケースも少なくありません。また妊産婦の「低血糖症」は「新生児低血糖症」の要因となり、脳障害を引き起こすことが知られており、発達障害（自閉症スペクトラム）の危険因子の一つであると指摘されております。

この「機能的低血糖症」の診断には、糖尿病診断に用いられている常用負荷試験および耐糖能精密検査が有効とされていますが、保険適用で行なわれる一般的な2時間検査では、上昇するはずの血糖値が上昇せず、変化のない平坦な曲線を描く「無反応性低血糖症」や、4時間経過後に血糖値が急落する「反応性低血糖症」などを診断することが難しいのです。精度を高めて5時間かけて検査を行なうことが必要で、さらに膵臓の機能障害の程度を診るためにはインスリン値を調べることも重要なポイントです。ところが、5時間の耐糖能精密検査は保険適用されておらず、高額な自己負担が必要なほか、実施する医療機関も少ないのが問題です。

機能的低血糖症と正しく診断されたことで、機能的低血糖症のための治療により症状が改善、社会復帰する事例は数多くあります。

そこで、「機能的低血糖症」に関する調査研究、病名の認知および意識啓発、検査態勢の拡充等が図られるよう、以下の取り組みを国に要望いたします。

- 1、「機能的低血糖症」についての医学研究の進展と診断・治療法の普及にむけ国として調査研究を進めること。
- 2、「機能的低血糖症」診断の為に5時間の耐糖能精密検査を保険適用の対象とすること。
- 3、新生児の「機能的低血糖症」による障害発生を予防するため、周産期医療において妊産婦の生活習慣の改善を図るとともに、早期発見と治療の態勢づくりを推進すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

平成22年 月 日

国会勉強会や「機能的低血糖症に関わる国の取り組みを求める意見書」については、青森県議会の伊吹信一議員が活躍してくださっています。現在まで以下の地方議会で決議されています。

北海道-赤平市、芦別市、名寄市、恵庭市、小樽市、石狩市、北見市、上砂川町。青森県議会。群馬県前橋市。茨城県取手市。千葉県市川市議会。埼玉県上尾市。東京都-東久留米市、調布市、東村山市、三鷹市、多摩市。長野県-安曇野市、松本市議会。愛知県名古屋市。滋賀県-大津市、野洲市。大阪府-箕面市、枚方市、堺市。京都府向日市。兵庫県宝塚市。福岡県北九州市。福岡県大牟田市

# 第1期事業報告

「一般社団法人低血糖症治療の会」

## 1. 社員総会 及び 法人活動

### A. 平成21年5月29日 My3階会議室にて設立社員総会

設立時社員7名、委任状1名、計8名の参加

- ① 定款承認
- ② 社員規則及び会員規定の承認
- ③ 低血糖症治療の会の第3期決算承認と繰越金の本会への引き渡しを確認
- ④ 事業計画の承認
- ⑤ 役員を選任  
理事長; 柏崎久雄 理事; 金井澄夫、浅野達、高野篤、寺田節子、戸田豊子、吉家文子  
監事; 田尾幸三、櫻井圀郎 ※ 常任理事は置かず
- ⑥ 社員給与(理事無給)の承認

### B. 法人設立登記

- ① 平成21年6月16日
- ② 法人の広告の方法 当会ホームページにて行う
- ③ 印鑑証明 平成21年6月23日 代表理事 柏崎久雄  
※ 櫻井圀郎監事の名前が違っていたことが判明、修正の要あり

### C. 社員

柏崎久雄 浅野達 金井澄夫 高野篤 田尾幸三(2口) 寺田節子 戸田豊子 吉家文子 若木重昭 杉本茂謙  
金井澄夫氏は1月末脱会申請により入会金変換 現在9名 10口 100万円  
社員には院長著「低血糖症と精神疾患治療の手引」新版を2冊贈呈

## 2. 理事会活動

- ① 一般社団法人設立準備事務会 平成21年3月24日 (柏崎、金井、浅野、田尾)
- ② 低血糖症治療の会理事会 平成21年4月18日  
(柏崎、金井、浅野、高野、田尾、寺田、戸田、吉家)
- ③ 設立事務会 平成21年4月25日 (柏崎、金井、浅野、田尾)
- ④ 設立事務会 平成21年5月15日 (柏崎、金井、浅野、田尾)
- ⑤ 設立理事会 平成21年5月29日 (欠席; 戸田、櫻井)

## 3. 全体研修会

- ① 第8回全体研修会 平成21年6月25日 MYビル「腸内除菌と精神症状の改善」 63名参加
- ② 第9回全体研修会 平成21年10月12日 千葉市市民会館小ホール「精神疾患諸症状からの回復」 パネルディスカッション; 柿谷正期教授、大沢博教授、柏崎良子医師 72名参加
- ③ 第10回全体研修会 平成22年1月28日 MYビル「低血糖症治療の基本」 47名参加

## 4. 会報発行

第7号(2009.5.15.発行)  
第8号(2009.9.1.発行)  
第9号(2009.12.22.発行)

## 5. 回復の会

第1回 9/29 6名申込 3名参加  
第2回 10/27 6名申込 4名参加  
第3回 12/1 6名申込 3名参加  
第4回 1/12 2名参加  
第5回 2/9 9名申込 8名参加  
第6回 3/9 10名申込 6名参加

## 6. 啓発活動

- ① 2009.6.17.(水) 参議院議員会館6階会議室 「厚労省科学研究費申込に関する打合せ」  
出席者  
取次；厚生労働大臣渡辺孝男参議院議員秘書 井上龍雄氏  
担当係官；厚労省健康局疾病対策課課長補佐 中田勝己氏  
同 健康局生活習慣病対策室室長補佐 渡路子氏  
同 社会・援護局障害保健福祉部精神・障害保険課 成重竜一郎氏  
同 雇用均等・児童家庭局 母子保健課主査 三間紘子氏  
問合せ者；一般社団法人低血糖症治療の会理事長 柏崎久雄  
青森県議会議員 伊吹信一氏
- ② 2009. 7/8-9 鹿児島大学医学部病院及び今村病院訪問・研究発表  
柏崎久雄理事長 大沢博顧問が訪問  
納光弘元鹿児島大医学部教授が研究室にて予備研究の中間報告と発表  
医歯学総合研究科血管代謝病態解析学 橋口照人 准教授  
血液・内分泌・糖尿病センター 糖尿病・内分泌内科 出口尚寿 助教  
臨床技術部 臨床検査部門 松下昌風 技師長 ら約20名が参加
- ③ 議員との懇談・説明  
第8回全体研修会にて  
第9回全体研修会にて  
伊吹信一青森県議会議員、鬼頭英一愛知県議会議員、木下優名古屋市議会議員  
第10回全体研修会にて  
畠山敬一青森県議会議員、梁川 妙子中野区議会議員
- ④ 記事・取材  
2009.2.2. 公明新聞にて第7回全体研修会を紹介  
2009.12月号 月刊公明 第9回全体研修会と低血糖症を説明  
2010.2.10. 公明新聞 低血糖症と会の活動を紹介

## 7. ホームページ

- ① 会のホームページを更新した。
- ② 会員サイトを作り、交流ができるようにした。  
会員IDとパスワードを全員に送付した。

## 8. 会員数

- ① 社員:9名
- ② 賛助会員:11名
- ③ 現会員(期限:H22.3.31):244名  
更新済み会員(期限:H23.3.31):158名  
全登録者数:294名  
一般社団法人化(H21.5.30)以降の新規入会者は56名。

## 第4期（社団として第1期） 収支計算書

自 平成 21 年 4 月 1 日 至 平成 22 年 3 月 31 日

一般社団法人 低血糖症治療の会

(単位：円)

科 目	明 細	金 額	備 考
収入の部			
1. 会費収入		468,000	社員 50,000、会員 418,000
2. 研修会参加費収入		490,000	3 回分
3. 回復の会 会費		52,000	
3. 物品販売収入		0	DVD 販売など
4. 寄付等その他収入		233,840	企業協賛金(ヨーゼフ、MC) 寄付金 2,840
<b>収入合計</b>		<b>1,243,840</b>	
支出の部			
1. 研修会費		680,230	
①会場費	117,160		4 回分
②印刷費	28,700		4 回分
③通信費	160,655		研修会返信はがきなど
④交通費	155,600		啓発研修旅費 75600 講師 80000
⑤諸費	218,115		食事代など
2. 会報費		76,000	
①印刷費	60,000		400 部 × (30+5×4) × 3 回
②通信費	16,000		200×80
③諸費			
3. 役員費		30,390	理事会交通費・食事代など
4. 事務通信費		3,470	
5. 事務局費		217,829	印紙代 61500 定款認証 52500 他
<b>支出合計</b>		<b>1,007,919</b>	
収支残高		235,921	
前 期 繰 越 金		0	
次 期 繰 越 金		235,921	
募金収入の部			
1. 分配益収入			
2. 基金のための募金			
収入合計		0	
基金繰り入れ		0	

## 「回復の会」のご案内

病気としては低血糖症からある程度回復していても、いざ社会復帰となると難しく、また実際に仕事をして支障をきたしてしまい、挫折感を味わってしまうことが少なくありません。私たちは、定職をもった正常な生活を送ることをもって、回復と定義しております。これには、低血糖症としての回復に関わる諸困難や対策法そして改善計画を教えられ、身につけなければなりません。参加者は、互いの交流や助け合いも深まっています。

### 「社会復帰研修会」会員限定

日 程：2010年11月9日(火)、12月14日(火)、以後未定

11時から16時まで。休憩は12時半～14時

講 師 柏崎久雄 理事長 寺田節子理事 参加定員 約10名(事前申込制)

内 容 身体的状況と対処法の確認、テキストによる心のコーチング、互いの親睦

会 費 一人6000円(3回分、テキスト代・昼食代別)前納

### 治療の会ホームページの会員専用サイト

会員専用サイトをご活用いただけます。このサイトの大きな目的は、会員各位の直面する多くの問題や悩みを解消する場として、また会員同士の交流をより深める場として活かされることです。是非ともご活用ください。

会員でインターネットに接続できるパソコンがあれば、ご利用いただくことが出来ます。

会員には、ID番号とパスワードをお知らせしています。携帯電話からのご利用はできませんのでご了承ください。

### <第11回全体研修会報告>

6月24日に行われた研修会の講師は、「市民の人権擁護の会」世話役の小倉謙氏でした。「向精神薬の副作用」は、その医薬品添付文書に、警告されてるような大きいものでした。例えばパキシルは、「プラセボ対象試験において有効性が確認できなかった」、「自殺に関するリスクが増加する」と【警告】されており、副作用発現率が、59.5%から2009年に68.5%に改訂されていました。

全国で精神科に入院している人は約32万人で、1か月以内に退院できる人は、たった200人でした。また1か月で死亡して退院する人が1200人ですから、治療効果は非常に少なく、自然治癒率の方が高いのではないかと指摘されました。

小倉氏は、問題点を次のように指摘しています。

- ・精神障害の真の原因が「脳内化学物質の分泌異常」ではないのではないか？
- ・単に病名だけが存在する架空の病気ではないか？
- ・客観的に評価され得る科学的で再現性の高い診断基準がない。
- ・向精神薬そのものの化学的作用に問題がある。

各地で子供のうつ症状に対して、安易に向精神薬を処方しようとする動きがあることが警告されていました。うつ症状は薬を飲めば治るという啓発活動は非常に危険であり、効果はでていないと報告されていました。

### 低血糖症治療体験記・原稿募集中

送っていただいた文章は編集・製本し、(株)ヨーゼフより出版する予定です。原稿がまだ足りません。今年中に出版予定です。至急お送りください。

様々な症状で悩む多くの患者さんがより適切な治療を受ける事が出来るよう、実際に治療を受けられ回復された皆様の声をお聞かせ下されれば幸いです。

#### ◆◆◆◆ 応募要領 ◆◆◆◆

- 内容
- ① 治療前の状況
  - ② 検査と診断、勧められた治療法
  - ③ 治療後の状況

応募 [info@yozeph.com](mailto:info@yozeph.com) メール形式かワード文書で添付。手書きの場合は、楷書でお願いします。

#### ※ 注意事項

- ・お送り頂く際はタイトル・氏名をご記入下さい。
- ・製本に際しては、希望者以外すべて匿名にて掲載させていただきます。年齢・性別・職業などは、可能な限り掲載させていただきます。
- ・作品の著作権及び二次利用権はすべて(株)ヨーゼフに属します。